

Bluetooth 接続画面

インターコム画面の上にあるスライドボタンを右側に切り替えればBluetoothインターコムが起動する。ペアリングは通話相手を「ユーザーの追加」表示のボタンを押して「見つけたデバイス」の一覧からどの番号に登録するかを選ぶだけと非常にラク。相手が何番に登録されているかが一目で分かる



ボイスコマンドの活用も用意

設定メニューの「デバイス設定」から「使用言語」メニューを呼び出すと、ボイスコマンドで使えるキーワード一覧を表示。うっかり忘れがちなキーワードも、すぐに思い出すことができる



FMラジオも分かりやすい

FMラジオメニューでは、あらかじめ放送局をメモリーしておけば、「★」をタップすることで周波数を一覧から選べる。「スキャン」を押すと受信できる放送局を切り替えてくれる

このボタンでオープンメッシュ、グループメッシュを切り替え

メッシュ 接続画面

メッシュインターコムは「インターコム」の画面左上の電源ボタンを押して機能をオン。中央の「チャンネル」のボタンを押し、リストから希望のチャンネルを選べばメッシュ通話が始まる（オープンメッシュ）。グループメッシュは「MESHグループを作成」をタップして始める。グループ情報が登録されていれば、右上の「現在のモード」からグループメッシュとオープンメッシュを切り替えることができる

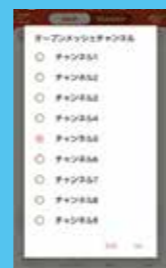


ミュージックシェアリングはこのボタンを押すだけ!



電話はアプリ、ボイスコマンドから選択可能

電話メニューを呼び出すと、アプリに登録した通話相手3件をボタンで表示。さらに「ボイスダイヤル」を押せば、SiriやGoogleアシスタントが起動して、声でスマホの相手先を呼び出して発信できる



スマホの電話帳にも対応

電話帳や通話履歴はアプリから、直接スマホの電話アプリをシームレスに呼び出せる。スピードダイヤルも電話帳からワンタッチで登録が可能だ

全機能にアクセス できるホーム画面

ホーム画面はメッシュ&Bluetoothインターコム、電話、音楽、FMラジオの各機能をボタン一つで呼び出せるほか、バッテリー残量や残り使用時間などが一目で分かる。左上のメニューボタンを押すと、50S/Rの各種機能が設定できる



今やアプリで「見える」「操作する」時代

セナ・アプリ 革命

「メッシュ2.0」インターコムシステムを搭載してこの夏、デビューしたフラッグシップ「50S」「50R」そんなニューモデルに合わせて、専用アプリも刷新新しい「セナ50ユーティリティ」は50S/Rを視覚的に操作できるダッシュボードだ

写真/増川浩一 文/八百山ゆーすけ
問:セナBluetoothージャパン <https://senablueetooth.jp>



最初の接続は分かりやすいが、

スマートフォンにアプリをインストールして起動すると、スマホとの接続方法がチュートリアル形式で現れる。表示されるイラストの通りにしながら操作していくだけで、簡単に50S/Rのセットアップが完了する



50R

シングルバック 4万5540円
デュアルバック 8万6680円

50シリーズの「3ボタン」モデル。メッシュインターコムをはじめ、機能や性能は50Sと共通だ。50Rはとてスリムなデザインで、スポーティなヘルメットによく似合う



50S

シングルバック 4万6640円
デュアルバック 8万7780円

第2世代のメッシュ通信システムを搭載したフラッグシップ。50Sはセナ・インターコムアイコンとなっているジョグダイヤルを採用し、直感的な操作が魅力のひとつだ

スムーズな操作が可能になる。特に多用するインターコムでは、アプリの画面による操作を覚えると、手放せなくなることも請け合い。オープンメッシュとグループメッシュの切り替えや、チャンネルの切り替え、グループの作成、Bluetoothインターコムのペアリングから、個別呼び出しといった操作は、選択肢を画面上で選べるメリットが大きい。

また、セナ50ユーティリティはスマホ内のアプリとも密接に連携。電話や音楽再生の都度、電話帳や音楽のアプリを呼び出さなくても、セナ50ユーティリティからこれらの操作に入っていける。もちろんSiriやGoogleアシスタントの呼び出しもアプリから可能。最近ではスマホをハンドル周りに取り付けて利用しているライダーも多い。セナ50ユーティリティは、50S/Rユーザーであれば、そんなスマホに必ずインストールしておきたいアプリだ。

アプリを使い始めたら、手放せない操作感

セナ50S/R専用のスマートフォンアプリとしてリリースされたのが「セナ50ユーティリティ」だ。50S/RとBluetoothで接続したスマホから、各種機能の設定ができるだけでなく、インターコムや音楽、電話、FMラジオといった、50S/Rの各モードを切り替えるなど、リアルタイムな操作ができる。

もともとセナ・インターコムはジョグダイヤルやボタンのシンプルな操作と、音声ガイダンスによるフィードバックで、直感的な操作ができる。それでも十分インターコムを使いこなすことはできるのだが、今、インターコムがどんな状態なのか、インターコムや電話の通話相手といった複数の選択肢から一つを選ぶといった操作では、スマホの画面から視覚的に情報が選べることで、さらに